



## 主 張

## ポスト40年への祈り

理事長 山田 雄次

年度末となるとその年度がどのような1年であったかを省みます。2017年度は久山療育園にとっては創立40周年後のはじめの1年であり、また社会福祉法人改革の実施の年と重なり、意味深い1年の歩みとなりました。

## ■後半の40年に向かっての歩みのはじめ■

ポスト40年のはじめに、久山療育園が目ざすべき目標は、設立の目的である「重症児者が社会の中心に位置づけられる福祉社会」の実現を期すということであり、その課題に熱い思いをもってチャレンジする新しい一步を踏み出すことが出来たことは大きな喜びでした。

「重症児者と共に生きる福祉社会」の実現のビジョンを将来において実現すべき課題として掲げてスタートした1976年から40年、重症児者に対する医療福祉の実践とその積み上げが実って、はじめの夢を実現すべき現実の課題として意識づけることが出来るようになったことはこの上ない喜びでした。

久山療育園の創立30周年を迎えるにあたっては記念事業として施設の全面改革工事を行い、40周年を迎えるに当たっては在宅支援の新しい展開を期して「在宅支援セン

ター」の建設をおこないました。これは在宅支援がキーワードとなると思われるこれからの重症児者福祉の展開のための布石としての意味を持ち、2009年度に策定された「在宅支援プロジェクト」の継続と強化の取り組みのはじめであるという認識をもっています。

これからの重症児者福祉の施策には新しい施設の開設と増床は無く、場合によっては既存のベッド数の削減もあり得るといふ厳しい状況の中、障害の重度化と重症者の身体的成長、介護にあたる両親の高齢化等の理由から生じる問題は深刻であり10年、20年先の在宅支援の課題を視野に入れたこれらの取り組みを強化してゆく上で在宅支援センターの開設の意義は大きかったと思います。

ポスト40年の取り組みとしては、当初は「在宅支援センター」「在宅支援棟」と「重症者ホームひさやま」の働きを拡充し在宅支援の強化を計りつつ、一方で在宅重症児者のニーズをリサーチし、「在宅支援プロジェクト」の継続と強化を計ってゆくことが重要だと考えます。

創立40周年の記念事業として行われた在宅支援センター、特に重症児者のためのグループホーム「重症者ホームひさやま」は重症者

に特化したグループホームであり、親の高齢化の中で在宅重症者の新しい受け皿として注目が寄せられており実績を残したい働きです。

## ■社会福祉法人改革のはじめ■

社会福祉法人改革の問題に関しては社会福祉法人バプテスト心身障害児(者)を守る会の設立と事業開始の始めから、開かれた運営を旨とし評議員会を設置し、公正を期しつつ、法人・園を挙げて厳しい経営努力を行って来ました。剰余金については総て将来の事業計画のため浄財とし、「将来計画積立金」として積み立てを行い、2008年の園舎の全面改築工事においても、2015年の在宅支援センターの建設工事の際も行政からの建築資金への公的支援が受けられない中(1976年の開設に際しては建築資金の4分の3、1987年の地域交流ホールの新設に際しては2分の1の公的資金からの補助があった)100パーセント自己資金で建築を行いました。

事業運営はキリスト教主義に基づき公正を期して行われて来たので今回の社会福祉法人改革で求められた諸課題、①法人運営のガバナンスの強化②事業運営の透明性の向上③財務規定の強化④その他については法律に基づき対応整備をなすことが出来た事を喜びました。

社会福祉法人改革により事業運営のスキルの強化が計られたことを喜んだのはそのことによって事

業運営の堅実化がもたらされ、久山療育園の設立の目的である「重症児者と共に生きる福祉社会」の実現に向け事業推進に資するハード面からの仕組みの整備が調ったからです。

## ■久山療育園の設立のはじめ■

ハード面での事業運営の強化をもたらし仕組みの整備が成ったことに対応し、ソフト面即ち、教会との深いつながりの中で開設された久山療育園ということについて再確認しておく必要を感じます。

久山療育園は事業運営のスキルの強化により徐々に事業体としての自立化が進んでゆくことになると思いますが忘れてはならないことは、久山療育園が独立してあり、それを理解し、支援するバプテストコロニー友の会(バプテスト教会)があるというのではなく、はじめに聖書が証しする「共に生きる」人の在り方を証しするバプテスト教会の祈りがあり、その祈りによって起された久山療育園であるということなのです。

久山療育園と教会のつながりの深さは社会福祉法人の設立に関することの中に示されています。

法人の設立趣意書には「われわれはこれ迄にこの問題(重症児者)に心を寄せる有志によってバプテスト心身障害児(者)を守る会を組織し……と謳われ、「社会の無理解と無関心の中、社会的に孤立し、重荷を負って労苦する両親に連帯し共に生きることを願いこの組織を社会福祉法人として組織し、その第一の事業として重症児のため

の療育園を建設することを決意した……」「私たちはキリスト教の愛の精神に基づき限らない可能性を信じて重症児療育に取り組む……」そして「コリント第2の手紙4章18節の聖句を法人と久山療育園の設立の精神とする」と記されており、久山療育園がバプテスト教会で起こった重症児者運動から生まれた施設であることが明記されています。

40年前の開設のはじめ、開かれた施設を目ざす取り組みの一貫として評議員会が設置されたということは前述したところですが、更に説明を加えると、評議員会は9人の理事を含め30人で組織され、開園後も久山療育園が設立の精神を忘れずに常に新しい夢と幻を描いて正しく運営されるように助言することを目的としていたということは制度が変わっても尊ばれ、継承されてゆかなければならないことだと思えます。

法人と久山療育園の設立の精神である「見えるものにではなく、見えないものに目を注ぐ」みことばの意味は深いと思えます。

久山療育園の設立の精神が尊ばれる中、法人改革による事業運営のスキルの強化が生かされ、「重症児者と共に生きる福祉社会」の実現に至る道が開かれてゆくことを心から願うものです。

## 制度・情勢

## 「平成29年度西日本重症心身障害施設協議会報告」

センター長 宮崎信義

## はじめに

第38回西日本重症児施設協議会は、2017年11月16、17日にびわこ学園等が担当され、草津市で開催されました。主要なテーマは「住み慣れた場所で、つながりあって生きる」で、地域福祉の充足や在宅支援の必要性が医療福祉の立場から協議されました。参加施設数は62施設、参加登録者は223名でした。

悠一朗氏が講話されました。その要旨を簡単に述べます。※診療報酬・障害福祉報酬の同時改定の具体的な内容は未定(平成30年2月頃公表の見込み)。改定は中医協(中央社会保険医療協議会)及び、障害福祉サービス等改定検討部会で検討されています。

来年度は診療報酬(2年ごとに改定)と介護報酬(障害福祉サービス費など3年ごとに改定)とが同時改定される年になり、事業の質や広がりへの直接影響することなので大きな関心を集めています。

## 行政説明

「平成30年度診療報酬改定等について」

診療報酬・障害福祉報酬の同時改定が主なテーマでしたが、行政説明は厚生労働省保険局医療課企画法令第一係長の有木

平成30年度障害福祉サービス等報酬改定に向けた主な論点は、①障害者の重度化及び高齢化を踏まえた、障害者の地域移行・地域生活を支援するためのサービスの評価と地域生活支援拠点等の整備促進及び地域移行後の生活の場の確保、②障害児(者)支援のサービス提供体制の確保と質の向上を図る観点からの報酬・人員配置基準等の評価(医療的ケア児への支援及び居宅訪問事業型児童発達支援の報酬等を含む)：障害者の重度化や高齢化によりサービス利用のニーズの多様化への対応。：地域生活支援拠点等の整備を促進し、生活の場であるグ

ループホームの確保等を行う必要がある、という内容でした。ここ2年ほど「医療的ケア児」について言及されていますが、医療が不可欠である重症心身障害児(者)と同義語ではなく、「医療的ケア児」のうち重症心身障害児(者)が約7割を占める包括的な概念であるという受け取り方でした。「医療的ケア児支援の報酬基準に係る論点」については、論点①医療的ケア児への支援に対する評価の必要性、論点②医療的ケア児支援の評価の方法、論点③評価の具体的な要件、論点④医療的ケア児の送迎の評価などの内容でした。

私見としては、もともと「重症心身障害児(者)」の概念や制度は医療が不可欠であることが前提でしたが、その「特化(個性)」がいまいになつていることが危惧されます。またここ2、3年になって、行政から「医療的ケア児」という表現が用いられることは歓迎すべきことですが、児者一貫やライフステージを通じて適用されることが明記される必要があります。

## 基調講演

「住み慣れた地域で、安心して暮らし続けるために」

最初に永源寺診療所医師の花戸貴司氏が、永源寺地区(旧・永源寺町、現在は東近江市と合併)での医療支援をほとんど医師としては一人で担ってこられた体験を話されました。高齢者や障害者の看取りという利用者と医療者にとって深い意味のある実態について述べられました。

シンポジウム「児者一貫の恒久化」を受けて、医療福祉の課題と対応

講演要旨は、【永源寺地区は人口が7,000人台で65歳以上の高齢化率は約30%(山間部では60%に及ぶ)。その中で住民は住み慣れた地域での暮らしを続けることを願っている。在宅を支えるために家族だけでなく、近所や様々な社会資源が寄り集まってきた。在宅での看取りも年間30人台から80人にも及んでいる。これも本人が望むこと。】というものでした。

また協働して活動されたフォトジャーナリストの國森康弘氏からは、【これまでご縁を頂いた数々のご家族たちのかけがえのない「看取り」と、それを支える「地域まるごとケア」について、写真を通じて見ていきたいと思

います。】と多くの写真を呈示されました。①シンポジストとして、ベルデさかいセンター長の児玉和夫氏が、「児者一貫の恒久化」を受けて、医療福祉の課題と対応について発題されました。その要旨は、②改正児童福祉法(平成28年6月3日施行)第56条の6第2項にある「地方公共団体は、人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児が、その心身の状況に応じた適切な保健、医療、福祉その他各関連分野の支援を受けられるよう、保健、医療、福祉その他の各関連分野の支援を行うための体制の整備に必要な措置を講ずるよう努めなければならない。」という条文について述べられ、③政策課題「医療的ケア児(者)支援」と報酬改定について言及され、2025年問題を見据えた診療報酬・介護報酬の同時改定、「介護医療院」(新法での



検討)は介護保険の対象であり、「当面、重症心身障害児(者)は対象ではない」とのことでした。

療養介護のガイドライン作成については、重症心身障害福祉協会理事会・ガイドライン作成

特別委員会以下のように説明されました。「療養介護は障害者総合支援法では…サービスの概要として「病院において機能訓練、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護、日常生活上の世話その他必要な医療を要する障害者であつて常時介護を要するものにつき、主として昼間において病院において行われる機能訓練、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護及び日常生活上の世話。また、療養介護のうち医療にかかわるものを療養介護医療として提供」としてあり、日中活動サービスであることが示されています。更に基準省令で示されている療養介護の基本方針の要旨を並べると療養介護に係る指定障害福祉サービス(以下「指定療養介護」)の事業は、(1)利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、(2)当該者の身体その他の

状況及びその置かれている環境にに応じて、(3)機能訓練、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護及び日常生活上の世話を適切かつ効果的に行うものでなければならぬ。」

④次に、「児童福祉法で位置付けられた医療的ケア児増加の時代に、重症心身障害施設が果たす役割」というテーマで、びわこ学園医療福祉センター草津施設長の口分田政夫氏が以下のように発題されました。

【要旨】医療・福祉同時改定への対応と今後の重症心身障害施設の在り方について、1. 児童福祉法で位置づけられた医療的ケア児増加の時代に、重症心身障害施設が果たす役割、(1) NICU長期入院児等の推移…NICU長期入院児の年間発生数は、2010年以降再び増加傾向。(2)重症心身障害児と医療的ケア児の相違として、「医療的ケア児」は医療依存度が高い児を指し、児童福祉法にも対応の必要性について明記されている。内訳は、重症心身障害が約70%で、約30%の重症心身障害以外の医療的ケア児が増加(小児科学会で調査)し、医療・福祉・

教育の連携が必要です。

⑤「福祉サービス改定に向けて協会の具体的な対応と展望」については、東京小児療育病院院長の椎木俊秀氏によつて以下のように発題されました。

【要旨】医療・福祉同時改定への対応と今後の重症心身障害施設の在り方―平成30年度障害福祉サービス等報酬改定に関する意見等(概要)。(1)人員配置体制加算の継続及び増額について、医療的ケア児に対するより多くの支援が必要…超・準超重症児は医療的ケア児の中の大きな割合を占め、手厚い職員配置体制を必要とし、看護師や生活支援員(保育士や介護福祉士等)についての人員配置体制加算の継続と増額をお願いします。(2)療養介護サービス報酬単価の引き上げ…生活支援員の獲得が困難であり、障害福祉分野に従事するサービス提供職員が離職することのないよう、職員の基本給や賞与の水準の確保のため、療養介護サービス報酬単価の引き上げをお願いします。以下略。

## 症

「施設アンケート調査報告」…インフルエンザとその他の感染症。調査期間…平成28年4月～平成29年3月、回答件数1155件/対象人数計6,465人/発生率2.40%。

①ワクチン接種(季節性)について、入所者(65回答)…全員接種28施設、95%接種30施設、90%接種5施設など。職員…全員接種8施設、95%接種21施設、90%接種13施設。ほか。②インフルエンザ発症(65回答)について…病棟単位7回答、単発29回答、発症なし22回答。インフルエンザ発症発端者(報告施設数…複数回答)は、職員21施設、入所者13施設、(外泊後)8施設、短期入所者4施設、不明17回答。型はA型のみ15施設、B型のみ8施設、A型・B型2施設。合併症は気管支炎・肺炎4回答、死亡者0回答。③インフルエンザ以外の感染症(61回答)…流行あり13施設、流行なし48施設。

平成28年度施設内骨折アンケート報告

回答施設数は65施設/65施設



おわりに

私は協議会終了後に、びわこ学園を見学させて頂きました。伝統あるびわこ学園から学ぶことが多く、糸賀一雄先生の功績をしのびつつ、医療機能と生活環境の調和によく配慮されていることが感じられました。これから重症心身障害児(者)の医療療育の向上を目指したいという思いが与えられました。

# 第48回久山療育園公開講座報告

センター長 宮崎 信義

日時：2017年11月7日(火)

参加：受講者 116名＋職員多数

場所：久山療育園重症児者医療療育センター 地域交流ホール

テーマ：『重症心身障害児者の療育の現状と課題』

目的：現法政下における重症心身障害児者の療育の現状と課題を講演を通して考え、「療育の質」の維持と向上に生かしていく。

## プログラム

オリエンテーション 中雄研修委員長  
センター長挨拶 宮崎信義センター長

講師紹介 入岡陽平理学療法士

I. 「療育とは可能性を伸ばすこと」

II. 「可能性を伸ばす取り組み」

昼食・休憩

III. 「活動―人―場」

IV. 「前へ進もう」

質疑応答

閉会挨拶

園内見学(希望者)

講演 『重症心身障害児者の療育の現状と課題』

松本茂樹氏

(作業療法士・ベルデさかいリハビリテーション部課長)

## 講演要旨

I. 「療育とは可能性を伸ばすこと」

1. 「療育」について

○高木憲次氏の療育概念(1942年)

『現代の科学を総動員して、不自由な肢体を出来るだけ克服し、それによって幸いにも回復したる回復能力と残存せる能力と代償能力の三者の総和(これを復活能力と呼称したい)であるところの復活能力を出来るだけ有効に活用させ、以て自活の途の立つように育成することである。』高木憲次先生(当時東大整形外科教授)が提唱した療育の定義

○高松鶴吉氏の療育概念

高松氏は、高木氏の療育を尊重しながら、知的障害の分野で培われてきた治療教育の概念も包括して、説明しています。

・「療育とは現在のあらゆる科学と文明を駆使して障害児の自由度を拡大しようとするもので、その努力は優れた『子育て』でなければならぬ。」

・「療育とは障害児の可能性の追求であるとともに、可能性の限界を知ろうとすることでもある。しかし、それでもなお、手を尽くすことによって障害児とその周辺(家族など)に力強い安心をもたらしのが療育である」

○岡田喜篤氏・三田勝巳氏

・療育とはあくまでも発達期にある児童についての概念であって、これが成人にも適用される概念であると考え、これは適切ではなからう。(狭義の療育)

・総合的な支援やサービスという意味で使われる広義の療育

・重症児に対する療育とは、まさに生命の質(心身機能・身体構造)、生活の質(活動)、人生の質(参加)のいずれにも深く関わる行為として認識される必要がある。

○児玉和夫氏

・一人ひとりの生活と人生を支援していくこと、そうした働きかけの総体を療育と呼びたい。

○平本東氏、伊藤光子氏

・活動の主体は利用者であることを念頭に置き、一人ひとりがどのように参加できているかを重視し、長期的な視野に立ち実践を積み重ねていかなければならない。

・活動は気分転換やレクリエーションを目的とするのみでなく、利用者のコミュニケーション

ニケーション能力の向上など個々の成長となり、生活の幅が広がり、豊かな生活につなげていくことが重要である。

## 2. 重症心身障害児者の療育の現状と課題

○新版重症心身障害療育マニュアルすべてが網羅されています。

・そこにはあらゆる取り組みが「療育」であると述べられています。

・本日はいただいた壮大なテーマは重症心身障害児者の療育の現状と課題。

・「療育」という概念がせまくなっていることが課題かもしれない。

○この講演では「療育」を：

・障害者・児の可能性を追求する取り組み。

・障害者・児と家族、スタッフなどに力強い安心をもたらし取り組み。↓ということとは：療育は、楽しさ、笑いの追求(これで話せる！)。

3. 作業療法(OT)は

・いろいろな活動(作業)への参加方法を考えます。

・活動をいろいろな視点で分析します。

・活動ができることも大事ですが、活動ができるように取り組めることが大事と考えています

(大会長大阪赤十字病院附属大手前整肢学園辻善城氏)

・活動への参加、成功を通して、幸せを感じていただくことを目指す専門職。

・動作ができるためには感覚がわかることが大事。

(例)スプーン操作、描画、更衣、太鼓をたたく。

・対象者の運動と感覚の受け取り方について介護者側が動きを感じて知ることが大切。

4. 対象者の方々の世界は？

・私たちは逃れられない思い込みの世界で生きている？

・隣の人とも違う世界をみているのかもしれない。

・感覚や運動に偏りが強い対象者の方々の世界は理解できるのだろうか？

・「理解できていない」ことを前提において近づく気持ちが大事かも。

「本人さんはどう思うてはるんやろ…」(岡崎英彦氏 初代びわこ学園園長)

II. 「可能性を伸ばす取り組み」

1. 子ども

・「一人で出来た」「自分で出来た」と感じる機会を増やしたい。

・自己有能感、自己効能感の育成。

・子どもは遊んで育つ。「出来るってうれしい」のが子どもの気持ち。

2. 大人

・音楽遊び↓土師の動きを促す。

・可能性の表現…飾りを作る。リハ目標——指輪の取り扱いの経過。

・動きを感じる。太鼓をたたく感覚。

3. 集団

・集団行動で個々人の可能性の発揮。

・「ベルデ・リストランテ」…喉頭気管分離術を実施している方々への食べる取り組み。「食べる楽しみの意味」——全

食ではなく一部でも家族は食べさせたいと願う。

III. 「活動—人—場」…活動の要素Ⅱ活動—場—人。

1. 人のチカラ

・「人」…自分自身、ご本人、他の参加者↓活動(遊び)を提供する。

UNLEASHⅡ「解き放て」

2. 活動の場

・遊び…「遊び遊ばれる関係性」共に楽しむイメージが大切。

・双方向性のコミュニケーションの成立。

3. 安定した日常を支える…変化する非日常を創る(変化は楽しい)

・生活感のある暮らし…多様な障害がある中で変化を創り出す。

す。

(例)スプーンが使いにくい↓スプーンを改造。気切部のタオルカニューレ抜去への対応。

・側臥位の勧め・補助具。エアークッションの活用。

・夏のプール活動…気切部の防水カバー、ウォーターハンモック。

・効果の判定評価は「笑顔」。

IV. 「前へ進もう」

1. 遊びの発達の視点

・感覚遊び(刺激)、探索遊び(玩具の活用)、ごっこ遊び(物語性)

模倣—日常生活動作(ADL)。

・ゲーム遊び(人物像や因果関係)、大人の遊び(余暇を楽しむ)など。

2. 思い込もう

・前向きの思い込み…安心できる環境を感じた時に笑われる。

・対象者の「笑い」は対応が適切であったという承認を示すことと思われ。

【講演内容についての所感】

・重症心身障害施設で育まれてきた「療育」の概念・内容の理論化と具体的な実践。

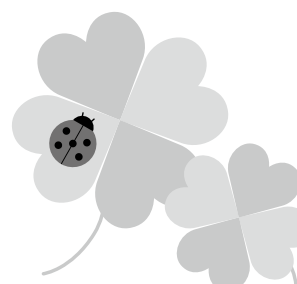
↓「療育」をリハビリテーション(広義の機能回復)だけでなく、

ライフステージに応じた発達の質や生活の質(QOL)の向上を目的とする概念であることを明示している。

・感覚や運動の状態の理解も、その人らしさやその人の思いを重視した取り組みとしている。

・児者分離の制度になり、歴史的な「療育」的視点が失われる危険が回避されている。

・創意工夫された「療育」への取り組みが示され、「動き」や「感覚」についての固定観念が払拭された。





## ご協力ありがとうございました

(2017年10月1日～12月31日) 敬称略

## 【法人】

## 一般献金

日本基督教団福岡南教会婦人会、山口正夫、新藤賢恵・佐知子、大石力生兄を偲ぶ会、福岡聖書キリスト教会、いのちの冠福岡教会、戸島相子、豊前キリスト教会、日本バプテスト女性連合、古川新、福岡女学院中学校・高等学校学祭、手作品売上げ、栗田昌枝、大秦野バプテスト教会女性会、青森バプテスト教会女性会、藤沢バプテスト教会、豊前キリスト教会、大高玄子、間部和子、天城山莊久山療育園献金箱、福田和憲、五斗美代子、山口正夫、阿部直子、日本バプテスト連盟宮崎キリスト教会、日本バプテスト大阪教会、飯田節子、岩崎慧祐、吉村佐津紀、木戸美沙、梅田淳子、後藤敏雄、梅崎正広、白垣充子、中尾慎宏、郡山コスモス通りキリスト教会、日本バプテスト京都教会、日本バプテスト連盟大分キリスト教会、馬原哲治、波多野陽子、かおり園、城里生英夫、増田康治、西南学院バプテスト教会兄弟会、草場久子、下山由美枝、高松太田キリスト教会、日本キリスト教会福岡城南教会、西南女学院同窓会福岡支部、牧角雅子、阿部初美、添田次郎、吉見末男、川端昌子、日本バプテスト女性連合、西加代子、相模中央

キリスト教会、中島乃婦子、東福岡幼稚園、船附啓二、安川治孝、山田かり、メイヨー秀子、讃井順子、清原和子、小山和子、加来国生、三上渡・有代、シオン山幼稚園保護者会、又野洋子、福本順子、村津俊博、木下由紀子、甲斐悦江、城前光子、因道子、波田良永島藤吾、志満秀武・てい子、野口美由紀、濱崎カツエ、山根めぐみ、加来陽子、鈴木牧人・加織、井上利子、小河裕之、濱尾浩史、高木妙子、中田赫子、小森孝子、藤壽美子、片山富美恵、横山史子、鳥飼バプテスト教会、柿木侶章、高橋香代子、野田紘美、磯谷潔子、西南学院バプテスト教会、福田妙子、窪田次男、橋本治光、菅原登紀子、中村美美子、石井はつみ、横山友美、古池節子、石原美月、戸島相子、三田真理子、福田靖、川野美恵子、奈良崎洋子、林俊明、中富美穂子、中富勇夫、福岡友の会、奥村洋充、米工房井上、藤永嘉孝、鎌倉ツヤ子、秋永侑美、坂口道子、堺太郎、土居祝男、久山療育園来久の会、藤城有加、松崎美恵子、安藤榮二、(有)アイアイささぐり、周船寺幼稚園、安永智代、学校法人西南学院中学校母の会、水野隆代、福岡中部教会附属養巴幼稚園、山崎工、(株)一粒社ヴォーリズ建築事務所、日本バプテスト東熊本

キリスト教会、嬉野キリスト教会、大村古賀島キリスト教会、西南学院舞鶴幼稚園、学校法人弥生幼稚園、清原和子、福田賢輔、別府国際バプテスト教会、柳元京子、足立和子、堤克彦、金井敏男、金井孝子、筑波バプテスト教会・教会学校ジュニア科、九州大学YMCA一麦寮、日本キリスト教団長崎銀屋町教会、周船寺第二幼稚園、明治学院高等学校、百合丘めぐみ幼稚園、下松京子、山形南部教会婦人会、豊前キリスト教会、飯田節子、伊佐久美、社会福祉法人シオンの丘、愛の国保育園・こひつじ保育園、日本バプテスト春日原キリスト教会恵星幼稚園、福岡中部教会婦人会、牟田米子、仙台バプテスト教会幼稚園、学校法人汀幼稚園、西南幼稚園母の会、西南幼稚園、長崎バプテスト教会光の園、大阪バプテスト教会、学校法人大牟田バプテスト学園、認定こども園光の子幼稚園、和久井文治・恵美子、池田和、(福)九州キリスト教会福祉事業団犀川のぞみ保育園、坂口繁和、日本バプテスト鹿児島キリスト教会、直方バプテストキリスト教会、宮邊悦子、溝上敦子、茗荷谷キリスト教会、日本バプテスト四日市教会、光の子幼稚園、草苑幼稚園、若松バプテスト教会 女性会、大鶴敬治、高木美鈴、榎谷悦子、日本バプテスト大阪教会、大阪旭伝道所、早川美美子、福岡市民クリスマス実行委員会、北白川いづみ保育園、福岡キリスト教会、認定

こども園玉名ルーテル幼稚園、西南女学院中学校・高等学校、日本バプテスト東京第一教会、矢野和美、清星幼稚園、清星幼稚園保護者会、大久保バプテスト教会

(以上3, 397, 368円)

## 【法人】

## 指定献金

嘉久明子

(以上3, 000, 000円)

## 【重症者ホーム】

## 一般献金

山田雄次、西南学院高等学校生徒会、松尾順子、井手伸昌、林俊明、梅木光男、中根史子、横溝玲子、加来徳子、川野直人、浜中保男、浜中美佐子、ホームひさやま家族会、早川高次郎、田隈バプテスト教会附属光の園幼稚園舎、賀戸一郎、権五林、神代曉宏、自動販売機売上献金、久山療育園献金箱

(以上1, 108, 498円)

## 【施設】

## 一般献金

大坪夏江、宮内千鶴子、後藤敏雄、渡辺浩行、中塚晴子、延岡キリスト教会、澤田雅子、的場チアキ、佐竹サツキ、井上安子、森永清治(亜希)、松尾貴光、梁瀬歌子、田中由美、田上洋子、久保山信・敬子、大原信幸、山口吉昭、澤田久夫、矢津眞澄、草場正子、佐伯年子、久山療育園保護者会、平野幸枝、岡本

好枝、花原章二、井上清美、加藤由貴子、山本知加子、(株)フクエキ、村山均、木元克治、山本三桂、西南学院大学汀寮、田川賢二、学校法人東京第一バプテスト学園、こひつじ幼稚園、平尾バプテスト教会子供クリスマス、宮崎信義、野田正紀、清水谷宏恵、田口和子、鷺見紀代子、草場美恵子、大坪恒之因、平川ヨシ子、金丸尚美、新藤賢恵、佐知子、伴敦子、碓ミエ、玉川勝己、草場年子、桜ヶ丘幼稚園、調眞琴・幸子、大洲幼稚園、小副川時子、松原こひつじ幼稚園、加藤節子、東洋英和女学院中高部宗教委員会、平山照人、石塚多美子、光の丘幼稚園、荻本明美、安井洋、安井江、ソフィア幼稚園、厚木幼稚園、ウェスレアン・ホーリネス教団福岡エルシオン教会、大井バプテスト教会女性会福祉グループ、中垣路津子、在日大韓福岡中央教会、関東学院のびのびのぼ園、東京三育小学校、高橋七三恵、久山療育園保護者会、宇美キリスト教会

# 【施設】

献品

栗ヶ沢バプテスト教会(タオル他)、梅木光男(カメラ他)、川崎バプテスト教会女性会(食事用エプロン)、金沢キリスト教会女性会(食事用エプロン他)、平塚バプテスト教会女性会(食事用エプロン他)、恵泉バプテスト教会女性会(食事用エプロン)、嘉久明子(梨他)、森岡

智恵子(枕カバー)、お針の会関祐子(半タオル他)、井手加奈子(ビール)、日高みどり(石けん他)、梅崎季美子(カレンダー)、福岡友の会(綿の布)、瀬尾江(シユーズ他)、防府バプテスト教会マルタ・マリア会(食事用エプロン)、宮崎キリスト教会女性会(食事用エプロン他)、江波キリスト教会(食事用エプロン)、山崎製パン従業員組合福岡支部(ケーキ)、福岡丸本(ケーキ)、福岡友の会(タオル他)、久山町役場(もち米)、高瀬孝介(タオル他)、村上嘉彦(ハガキ)、ロジテム九州(ケーキ)、西日本新聞民生事業団(ケーキ)、くばらコーポレーション(ケーキ)、井上清美(湯のみ他)、相模中央キリスト教会(食事用エプロン他)、末田初恵(電子キーボード)、西日本高速道路(カレンダー)

(以上300円)

## 【バプテストコロニー友の会】

12月分街頭募金(一部)

(以上179,971円)



藤田 英彦

ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい。  
ピリピン人への手紙! 27

フィリピの教会は、それまでアジアで伝道していた使徒パウロが、エーゲ海を渡り、パックスロマーナを誇るローマのマケドニア第1の植民都市に伝道した教会です。(ここからキリストの福音は世界に広がりました)この手紙は、パウロが、コリントで伝道した後、再びアジアでキリストの福音を宣べ伝える途中エペソで捕えられ獄中にあつた時、フィリピの教会の人達が見舞い品を贈ったその返礼として書いた手紙です。使徒パウロは、自分自身の生と死について語り、自分がこの地上に留まる必要だという結論に達しました。

そして、彼はフィリピの人たちにキリストに従う者としてこの世に生きる生き方、即ち「ただキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい」と勧めます。

キリストの福音にふさわしいとは、私たちの主イエス・キリストが、貧しい馬小屋で藁を褥とした馬槽に誕生し、人の子は枕するところなしといわれた生涯を送り、貧しい者と共に生き、徹底的に人を愛され、最後の晩餐の前にペトリの足を洗い、ゲッ

セマネの園で「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、御心のままに行つて下さい」と祈られて十字架に架けられ「父よ、彼らをお赦しください。彼らは何をしていますのか分らずにいるのです」また「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と叫んで息を引き取られ、死んで葬られ陰府に入れられ、三日目に甦られたその方を主・救い主と信ずる信仰です。私たちはそれを福音と信じています。

「ふさわしい」とはどういうことか?キリストの十字架による愛、キリストの復活と共に生きる希望に生きるということです。

そしてパウロはこのような「生活を送りなさい」と勧めます。この言葉は、ギリシャ語でポリテウウッセと言つてポリスと言つても警察ではありません。当時の都市国家のことです。そこから古典ギリシャ語として「市民生活を送る」「共同生活を送る」という意味から①「キリストの教会を神の国の共同体とみなし、共同体の一員としての生活をする」②「キリスト者ひとりびとりが市民社会の一員としてキリストに従つた生活をする」パウロは、教会共同体の一員としてキリストに従いつつ、共に歩む者となれと勧めています。

バプテストではよく個人の救いということが言われますが、『主の祈り』も「天にまします我らの父よ」と祈るように、私たちは、教会の信仰共同体の一人として「我ら」が「共に」生き、「共に」生活しているのです。



## 支援者からの声

キリスト者奉仕会・大牟田恵愛園  
施設長 叶 義文「共に生きる出会い  
からの出発」

一、はじめに

私は久山療育園設立から7年後に開園された福岡県大牟田市にある社会福祉法人キリスト者奉仕会に所属しています。久山療育園は、同じバプテストの先輩施設としての存在です。

まだ障がい者への隔離や差別が露骨な40数年前、「重症児(者)」が社会の片隅に収容されて生きているのではなく、むしろ地域の中心に位置づけられることを願うという設立理念は、どんなに重たい障がいがあっても社会の中心にいて、共に生きていこうとする強い姿勢が伝わってきます。

二、優生思想と向き合う

先日私たちの法人(キリスト者奉仕会)で全職員対象の研修会を行いました。内容は、①山口県で起こった施設職員による利用者虐待、②相模原のやまゆり園の大量殺人事件、③約80年前、ドイツ

で起こった障がい者虐殺についてです。なぜこのようなことが起きたのかその本質を学び、考え、私たちが障がいのある人とう向き合っていくかということを考える研修会でした。

2016年7月、神奈川県立の知的障害者福祉施設津久井やまゆり園に、当時26歳の元施設職員が侵入し、重度障がい者を刃物で19人刺殺、26人に重軽傷を負わせるという大量殺人事件が起きました。あまりにも痛ましい、未曾有の重大事件です。しかし、意外に知らない人が多いとの結果には驚きました。関心がないからか、仕方ないと思っているからか、自分には関係がないことと思っているからでしょうか。

犯人が衆議院議長にあてた手紙には、次のように書かれています。

「私は障害者総勢470名を抹殺することが出来ます。…保護者の疲れきった表情、施設で働いている職員の生気の欠けた瞳、日本国と世界の為と思ひ、居ても立つても居られずに…私の目標は重複障害者の方が家庭内での生活、及び社会的活動が極めて困難な場合、保護者の同意を得て安楽死できる世界です。…障がい者は不幸を作ることしかできません」と。

「重度障がい者は生きていても仕方がない」「安楽死させた方がいい」と。私たちはこの犯人の手紙をどう受け止めたらいいいのでしょうか。

ある知的障がい者の親御さんがこの相模原事件を受けて、次のように語りました。「私たち自身が偏見のな見方をしていないか。自分の子どもと他人の子どもを比較して、「あの子よりも自分の子がましでよかった」そもそも子どもが障害を持って生まれたことで落ち込んだこと。そのように考えてしまうこと自体がどこか「障害」を歓迎していない。障がい者マイナスと受け止めてしまっているのではないかと」。

また、ある障害当事者の人が言いました。「わたしはこの事件を受けて、あまり驚かなかった。起こるべきして起こったと思った。自分が障害(脳性まひ)を持って生まれ、生きてきて、まわりの人たちの自分に対して向けられるまなざしを見て思ったこと。同情、あわれみ…の眼差し。やっぱり起きてしまったか」と。

先日、40歳代半ばの女性が大牟田恵愛園を利用したいということとで相談がありました。その女性は結婚し、子どもを産み、20歳代で脳出血を発症。高次脳機能障害で認知レベルは8歳程度と診断されました。3、4年前まではその女性は血洗いや洗濯物干し等ができていましたが、最近では体調がすぐれず、ふらつきが多く、何も家事ができない状態となっていました。夫からの虐待を受け、夫の言いなりになっている息子からも「こいつマジ何とせん」と罵倒されるそうです。夫は妻へのメールで「生きている価値がない」とか「金食い虫」と罵倒。夫が準備した食事を食べないと、食事にビールをかけ「食え」と言ったりするそうです。妻は複数回、大量服薬による自殺未遂を行っています。

「生きていく資格なし」、「やっかい者」、「金食い虫」、抛り所であるはずの家族からこのような対応をされる彼女の痛みはいかばかりか。まさに相模原の事件を想起してしまうケースです。

人を「優れた人」と「劣った人」、「役に立つ人」と「役に立たない人」に選別し、「劣った人」「役に立たない人」は「生きる価値がなし」とする「優生思想」。介護の大変さゆえにその人の存在を「やっかい者」として否定してしまう価値観。

結果として抹殺まではしないにしろ「障害」をマイナスとして位置付けてしまうこの価値観は、社会の中に、また私たち自身の中にも潜んでいる価値観といえるのかもしれない。

三、出会いの素晴らしさこそが原点  
私たちは、バプテストに関わる社会福祉団体(障害者施設、老人施設、保育園等々)で日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会を組織しています。その中の大きなテーマが、キリスト教社会福祉をどう実践していくのかということです。

その本質は、神の前では、皆平等であり、どんなに重い障がいがあっても、誰もがかけがえない存在であることです。そして、わたしたちがその障がいのある人との出会いを通して、何を感じ、何を学ぶのか、

その関わりの中身こそが、問われているのだと思います。

相模原事件の犯人である元施設職員は言いました。「保護者の疲れきった表情、施設で働いている職員の生気の欠けた瞳」と。介護に疲れ、かわかることに疲れ、それが重荷としてしか感じられない価値観。

そのような中にあっても、私たちは、出会うことの喜びや素晴らしさに着目します。関わりの中で、日々いろいろな困難なことがあるかもしれませんが、そのことも含めて「出会いの豊かさ」なのだと思います。

久山療育園が大切にしてきた言葉に「共に生きる」という言葉があります。私たち「キリスト者奉仕会」でも久山療育園に倣って大切にしてきた言葉です。しかし、忘れてはならないことは、この言葉の裏側には、差別や偏見があり、優生思想があり、悲しみや苦しみがあるということです。「共に生きる」ということを実践していくということは、そのことへの向かい合いを抜きには考えられません。

世界中で憎しみや争いが絶えない中、「人」よりも「物」、「他者」よりも「自分」という価値観が当然のように語られる時代に合って、久山療育園が最も重い障がいのある人たちがえのない存在で、その出会いこそが素晴らしく大切であることを実践し、発信していったほしいと思います。

# 入所クリスマス

数日前から廊下や交流ホールにクリスマスツリーが飾られ、いよいよクリスマス会が行われました。待ちに待ったクリスマス会で利用者の皆さんも朝からワクワク。交流ホールに移動してクリスマス会のスタートです。礼拝やキャンドルサービスは皆さん真剣な表情で参加されていました。ひかり棟からは、広池彰彦さん、佐伯幸男さん、西坂侑剛さん、めぐみ棟からは三壺紗織さん、古賀美紀さん、村津正裕さんです。代表してみんなの前に立つ姿はとてもしっかりとよかったです！

今年はソプラノ歌手 林麻耶さん、ピアノはソプラノ歌手 三菜子さんをお招きしクリスマスコンサートが行われました。素晴らしい歌声にみなさん魅了され、林さんが近づいてくると保護者の方も記念に撮影されたりして楽しまれました。

トナカイと一緒に登場してきたサンタさんに大きな袋いっぱいのおクリスマスプレゼントをもらい、嬉しそうにしている利用者さん。

お昼は皆さん大好きなケーキをペロリと食べ、普段は経管栄養の方も今日は特別にSTさん、ご両親と一緒にショートケーキを美味しく食べている姿が印象的でした。利用者の皆さん一人ひとりが特別なクリスマス会になったのではないのでしょうか。

今回は初めて行事委員という立場で参加し、準備段階から関わり貴重

な経験をさせて頂きました。これからも様々な行事で利用者さんの笑顔が見られるように取り組んでいこうと思います。

(めぐみ棟介護福祉士 村上里奈)



ステキな歌声にみんなうっとり…



## 「はじめて入所クリスマスに参加して」

12月12日、久山療育園でクリスマス会が行われました。病棟もクリスマス仕様で華やかに飾られてキラキラしていました。そのいつもと違う雰囲気を利用者さんも職員も朝からどきどきワクワクして落ち着かない様子でしたが沢山の保護者の方々が来て下さり、皆笑顔になりました。

交流ホールにて行われたキャンドルサービスでは幻想的な雰囲気の中、理事長先生のお祈りに始まり、うっとりするとともにきれいな歌のコンサートや演奏を楽しんだりと、とても賑やかでした。いつも入眠しがちな方もその日は、しっかりと覚醒しており、目をキラキラと輝かせて、楽しそうにしている印象を受けました。

お昼は豪華なメニューとケーキでした。私はケーキを食べていた時の利用者さん達の嬉しそうな笑顔がとても印象に残っています。

そんなニコニコと嬉しそうにされている利用者さんの様子を見ることができて、私も思わず嬉しくなりました。今年も大切な方々とクリスマスが過ごせてよかったなと思いました。こんなに楽しいクリスマス会に参加させて頂いたことに感謝いたします。ありがとうございます。

(めぐみ棟看護師 宗こころ)



サンタ：「メリークリスマス！」



トナカイさんとハイ、ポーズ



## 園クリスマスに参加して

昨年の4月に久山療育園に入職し、初めてのクリスマス会に参加させていただきました。12月に入ってすぐ病棟や廊下など、みんなで協力して飾り付けをして、一面クリスマスで賑わっていましたね。当園の飾り付けを見ては「つい最近までハロウィンやイースターのイベントをしていたのに、もうこんな時期かあ。」と四季の移り変わりをしみじみ感じていました。クリスマス会が近づけば、廊下からは聖歌隊の美しい歌声が聞こえ、利用者様と一緒に練習を見に行ったりもしました。

12月14日、クリスマス会当日。利用者の皆さんは笑顔いっぱい、病棟内に流れるクリスマスソングに耳を傾けていました。交流ホールが大勢の人で埋まり、1人1人の手にはキャンドルを。室内に照明が一斉に消え、静かになった空間に響き渡る綺麗なピアノの音色。それに合わせてのイエス・キリストの誕生についての朗読には、とても感動しました。日常で何気なく聞いたことのある人物名や物語に、聖書やキリスト教にあまり知識のない私でさえ引き込まれるような、そんな雰囲気感動で鳥肌が治まりませんでした。何より、クリスマス会で一番感動したのは聖歌隊の歌声です。皆さんの歌声と、歌唱力に感銘を受けました。

来年のクリスマス会が更に素晴らしいものとなる様に、久山療育園の職員の一員として頑張りたいです。

(ひかり棟看護師 村島美優)



ステキな歌声にみんなうっとり…

みんながわくわくするクリスマス会、飾り付けがたくさんあって、サンタさんがやって来た。コーラスや音楽会など利用者さんもスタッフもみんな笑顔です。贈って頂いた生クリームケーキはとっても美味しくて一口頬張ると、甘いクリームがいつぱいに広がり、あまりのおいしさにみんなビックリした様子でした。

一年に一度のクリスマス会は、皆さんとても楽しみで待ち遠しいのではないのでしょうか。

私も仕事をしていると、聖歌隊の優しい歌声が聴こえてきて、聴き入ってしまいました。みんなが穏やかな表情になっていて、幸せな気分になった一日でした。ありがとうございました。

(めぐみ棟看護師 森眞由美)

## ひかり棟の活動

### 「正月あそび」〈書初め〉〈福笑い〉〈風揚げ〉

あけましておめでとうございます。ひかり棟では、元日に、みんなでお正月遊びをして楽しみました。

はじめに、みんなで〈書初め〉にチャレンジ！

利用者さんとスタッフとで一緒に筆を握り、「さあ今年の思いを文字にしよう！」

沢山の言葉が飛び交う中で、「これだ！」と思った言葉に利用者さんはニコリと笑顔で応えます。決まった人から次々に慣れない筆と墨汁に悪戦苦闘しながら、びつくりするぐらいそれぞれの個性が出て輝いている作品が完成しました。その作品の中には、今年一年間の目標であったり、ちょこつとユニークな文字もあったりと、みんな力強く、元気いっぱい〈書初め〉の作品が完成しました。半紙いっぱい書いて書いた文字はとても素敵です。

そして、次に〈福笑い〉をしました。これもまたまた、利用者さんとスタッフとでペアとなり、利用者さんの誘導で、スタッフが顔を作ります。面白おかしく、色んな表情の福笑いが完成しました！面白い表情をしている福笑いを見て、ひかり棟中に大きな笑い声が響き渡りました。

最後に、〈風揚げ〉に挑戦です！少し寒かったですが、お天気にも恵まれ、利用者さんの「あがれー！」の声に応えるために、スタッフが一生懸命に走り

ます！声援のお陰でしょうか、風が気持ちよく中庭のお空に上がってくれました。「ホッ」と一安心！

デイルームでは、こたつの中でほっこりとお正月気分を味わえました。いろいろなお正月遊びをして、懐かしさも感じ、「今年一年間も、みんな元気に仲良く過ごせること間違いなし！」と言えるほどみんなで仲良く過ごしたお正月になりました。

(ひかり棟療育員 栗山真由美)



目は、もっと上だよ！



やっぱりこたつが一番！  
ぽかぽかだね。



## 通所で頑張っています

12月15日、少しずつ皆で飾り付けしてきた廊下やお部屋が一瞬にして変化した通所クリスマス会当日。廊下では風船で出来たクリスマスツリーを前に笑顔と歓声で溢れ、今年の目玉とばかりに写真撮影する方々で賑わっていました。

ワクワクした表情で利用者の皆さんが集まり、フルート&ピアノの演奏会が始まりました。優しい音色のフルート、柔らかい音のピアノが美しく、3曲のアヴェ・マリアにアンパンマンの曲、クリスマスソングと多くの曲が演奏され、中でも、絵本「忘れられない贈り物」の読み聞かせとのコラボレーションでは、心に響くお話とメロディーに涙する方、傾きながら聞く方、様々な思いで耳を傾けていました。

そんな素敵な演奏会の後は、通所スタッフによる出し物。リズムカルな曲と共に登場したサンタクロースは不思議なお鍋を発見します。開けるとそこからはなんと音が飛び出し、中に入っていたトーンチャイムで遊びだす2人のサンタクロース。音はどんどん遠くに飛ばされ会場全体で音のキャッチボールが始まりました。言葉を使わず身体と楽器で表現するサンタクロースに、音を目で追ったり感じたりと皆さんは楽しまれました。

これで終わりかと思いきや、ク



フルート&ピアノ演奏会

クリスマスソングが流れ出しました。駅のホームに到着する列車を待つ2人の女性。到着した列車から降りてくる彼の向かった相手は…。かの有名なCMをアレンジして再現した久山新喜劇で会場内は大笑いでした。そしてお待ちかねのプレゼント渡しの時間。ところがプレゼントを持っていないサンタクロースとトナカイ。いつも持っているはずなのに、と少し心配そうな方。理由は食事会場に隠されていました。会場を移動してみるとそこには多肉植物が置かれていました。クリスマスソングを歌い、お食事やプレゼントの話題で皆さん楽しまれました。利用者さんのたくさんの笑顔に心温まる1日となりました。来年も皆さんをアツと楽しんで頂けるクリスマス会にしたいと思います。

(通所保育士 桑原リサ)

## 「エステ活動で変身」

通園では療育に重点を置き、日々、大型遊具を使った運動、スノーズレン活動、季節が良い時は散歩、季節行事等々多様な活動を行っています。今年は成人を中心とした利用者を対象に、エステ活動を取り入れました。

ゆつくりとしたBGM、アロマテラピーの香る、南の島バリとまではいきませんが南国の雰囲気の中で、炭酸水を使った頭皮マッサージ、フェイシャルマッサージ、ハンド&フットマッサージ、ネイルなど、今までとは、違った活動に取り組みました。

炭酸を使った頭皮マッサージでは、温めた炭酸水を頭皮に少しずつかけ、優しく円を描くように、マッサージを行いました。初めは何をされるか不安そうでしたが段々、利用者さんのリラックスした表情へ、とても気持ちよさそうで、終わった後の髪は柔らかくふんわりとしていました。炭酸は毛穴の汚れを落とし、頭皮の循環を良くするのだそうです。

フェイシャルマッサージでは、スタッフは、にわかエステシャンに早変わり。

慣れない手つきでクリームで顔のマッサージを行い、フェイスマスクでパックをしました。白いマスク姿は、笑いを誘いましたが、皆さん嫌がる様子もなく(中には顔を触られるのが

苦手な方もいましたが)、終わった後は、ニベアクリームを塗って色白のイケメンとイケガールへ変身していました。お母様方からも肌の色がスッキリしいつもと違うと、好評でした。ハンド&フットマッサージでは、冷たかった手足が、ぽつかぽかへ。いつも冷たい手足も血流の流れが良くなり、緊張していた体の力も抜けてうっとりウトウトです。

お母様方からは、「私も行ったことがないエステが体験できて良かったね」と変身した利用者さんを見てその効果を実感されていました。

今回の開店日には、皆さんも体験しに通所へ、いらつしゃいませ。

(通所看護師 町田志摩子)



マッサージ気持ちいいな〜♪

# 通所で頑張っています

## 『一歩ずつ』

十年前、長野オリンピックの開会式の日には5か月間お世話になったNICUを退院して、宗則が我が家へやってきました。

こうして成人式を迎え、皆様方からお祝いして頂けるとは、当時誰も予想しませんでした。とても難しいと思っていました。昼も夜も眠れず、嘔吐を繰り返して、熱を出しては入退院の日々でした。その様な中で紹介いただいた福祉センターから今に至る一歩が始まったと思います。そこから本当にたくさんの方に携わって頂き、次への足掛かりを一步また一步と築いて下さいました。そうして綱渡りではありますが現在の在宅での家族との生活にたどり着きました。今思えばもっといい方法があったり、えらく遠回りな道を通ってきた部分もありました。でも大変だった分がそのまま子供への愛情と家族の絆に繋がっていると信じています。

先日の久山療育園での成人式では、楽しく愛情に満ち溢れたものでした。お祝いしてくださる方々の優しさがひしひしと感じられ、親としてこんなに嬉しい気持ちになるのだと驚きました。また通所の機会を与えて下さり、スタッフの方々やお母様方と知り合えたこと、本当に本当に良かったと改めて感謝しています。皆様、ありがとうございます。そしてこれからもよろしくお願い致します。

(安河内宗則さんのお母様)

## 『二十歳』

久山療育園での成人式、沙紀はスタッフの方々に振袖・ドレス・メイク・髪セットをして頂き、大人可愛くしてもらいました。そして、たくさんの方々に祝福して頂いたこと、とても有り難く思いました。

沙紀が生まれてから二十年も経ったなんて実感はありませんが、二十歳という年は、今までを振り返り、これから新たに生きていくために、一度ゆつくりと立ち止まって考えるいい機会になりました。私は、沙紀との時間は当たり前にあると思っていました。私は、沙紀が二十歳になったとすぐに入院した時、当たり前にあると思っていました。日常は、本当は奇跡なんだ!!という事を実感しました。沙紀は二十歳で沢山の人たちと出逢い、たくさんの人たちに支えられて生きてきました。

沙紀を・私を・今まで支えて下さった皆様、有り難うございます。そして、これからもよろしくお願い致します。いつまでも沙紀の笑顔と共に・

(今林沙紀さんのお母様)



おめでとう!!!



## 「通所 餅つき大会」

1月5日、新年最初の通所行事「餅つき」が行われました。

年末年始の休み明け、静かな通所棟に1人…2人と利用者さんとお母様方が到着。あちこちで新年の挨拶が交わされ、あつという間に通所にいつもの活気が戻ってきました。

今年は21名の利用者さんとそのご家族が参加して下さり、園長先生の挨拶の後、餅つきが賑やかにスタート！とつてもいい香りの蒸したもち米をまずは園長先生がつくれました。

続いて利用者さんや保護者の方々も順番についていかれ「ヨイショ！ヨイショ！」の元気な掛け声が通所に響きわたっていました。宇宙の小さな友達もお母さんやお兄ちゃんお姉ちゃんたちと一緒に杵を下ろし、最初は不安げな表情をしていたお友達も次第にいつもの笑顔に変わっていました。

久しぶりにお会いするお母様方も話が弾み、つき上がったお餅を皆さんで楽しく丸めてくださっていました。

もち米が蒸し上がる間、利用者さんは丸めたお餅を手で握ったり、顔に当ててみたり…と、お餅の感触を楽しまれビックリ顔や笑顔など：様々な表情を見せてくれました。

また保護者の方々やスタッフに今

年の抱負を聞こうとマイクを向けると、現実的な抱負や面白い抱負などたくさん聞かれ、終始和やかな雰囲気の中餅つきは無事に終了しました。

午後はお待ちかねビンゴ大会！今年は松・竹・梅3つの箱のどれかを選び、その中に入っている景品がもらえます。数字が読み上げられるたびに「やったー」「あーあ」と喜ぶ声や落胆のため息があちこちで聞こえ、大いに盛り上がったゲームも全員ビンゴ！で皆さん色んな景品を手にする事ができました。

皆さんの元気な笑い声に包まれ、あつという間に終わった餅つき。今年も皆様が健康で笑顔溢れる一年となりますように。

(通所介護福祉士 安河内育子)



ヨイショ！ヨイショ！

## 重症者ホームひさやまより

### 「お正月遊び」

新年明けましておめでとうございます。

今年で3回目を迎えるホームのお正月。今年も楽しみます。お正月遊び。朝から入居者の方々とスタッフ「今日は何して遊ぶうか」と相談開始です。

意見もまとまった所でまずは遊び道具作りから。今年は巨大すごろく、羽子板福笑いをみんなで作りました。まずは人気だった巨大すごろく遊び。リビンダや廊下が一気にすごろく会場になります。いざスタート。大きなサイコロを一生懸命投げ、出た目だけ進みます。

マスにはラッキーな物ものもあればモノマネやダンス等少し恥ずかしいものも。それでもみなさんスタッフと協力し一生懸命ゴールを目指します。何度

も何度も振り出しに戻ったり、何度も同じマスに止まったり巨大すごろくは中々ゴールをさせてはくれません。普段見られない入居者の方たちのモノマネやスタッフとの本気ダンス等大爆笑のすごろくでした。

そして福笑いとは去年ホームで大ブームを起こしたコマ回し大会ならぬベイブレード大会を今年も開催。福笑いでは入居者さんとスタッフがペアになり二人とも目隠し。他の入居者さんとスタッフの誘導で顔を作ります。手作りパーツを使いどんなおたふくが出来上がるのか…。入居者さんとスタッフがちよつと意地悪な誘導をしたり、面白

い目や鼻のパーツが組み合わせさつたりと手作り感のあるおかしい顔のおたふくが完成しました。

そしてベイブレード大会では毎度お馴染みの入居者さん、スタッフ混合トーナメント戦。みんな自分のお気に入り強いベイブレードを決め試合開始です。ホーム中に「回れ、回れ」と大きな声が響きます。ベイブレード中は皆さんのハプニングが起こります。その度にホームは大きな笑い声に包まれます。その他にもみんなで羽子板や凧揚げをして遊びました。

遊び疲れる程お正月遊びを満喫した皆さん笑顔が溢れたお正月になりました。今年もみなさんお元気で。たくさんお出掛けや楽しい事をしていきましょうね。

(ホーム介護福祉士 新木ひとみ)



## 2018年街頭募金報告

クリスマス・年末街頭募金に、ご協力を頂き有り難うございました。

「バプテストコロニー友の会」の年末街頭募金を、今年も12月16日(土)と22日(金)～27日(水)迄の合計7日間、福岡市中央区天神の大丸デパート前で実施しました。今年は、一部雨に降られたものの、で実施できなかった日がなく、7日間すべて行われたことを嬉しく思っています。

連合諸教会、バプテストコロニー友の会、久山療育園の職員及び保護者の3者の協働により、寒波の中でありましたが、ビル風に吹かれながら、延べ7日間をリレーでやり遂げました。

皆様のあつい参加と、ご協力を改めてここに感謝申し上げまして、ご報告致します。

## ①参加者数(延べ)

・23教会105名 ・久山療育園職員19名 ・同保護者21名 ・合計145名

## ②募金額

|          |      |          |           |
|----------|------|----------|-----------|
| 16日(土)   | 12名  | 33,353円  |           |
| 22日(金)   | 10名  | 43,776円  |           |
| 23日(土・祝) | 33名  | 82,925円  |           |
| 24日(日)   | 22名  | 62,423円  | 雨のため途中で中止 |
| 25日(月)   | 24名  | 72,042円  |           |
| 26日(火)   | 23名  | 60,325円  |           |
| 27日(木)   | 21名  | 47,604円  |           |
| 合計       | 145名 | 402,448円 |           |



(バプテストコロニー友の会街頭募金委員会)

## 「愛の手を」 発行期日変更のお知らせ

当誌は2018年度より4月20日、6月20日、9月20日、1月20日を新たな発行日としてお手元にお届けする予定です。内容についても一層充実にも努めて参りたいと存じます。今後とも宜しくお願い致します。 —社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会—

## メモ帳

## 【10月】

▽3日～4日、中途職員オリエンテーション  
▽6日、誕生会▽8日、東久原運動会▽10日、音楽会「オカリナとギター」▽13日、バプテスト女性連合 見学来園(73名)▽15日、祭りひさやま参加▽17日、九電工さわやか旬間(外周りの清掃作業)、音楽会「スマイリングホスピタルジャパン」▽18日、福岡特別支援学校 修学旅行▽21日、入所秋祭り

## 【11月】

▽7日、第48回公開講座(参加人数116名)▽9日、平成29年度病院立入検査(粕屋保健福祉事務所)(来園8名)▽18日、保護者役員懇談会、平尾教会子ひつじの園ランチカフェ参加▽21日、第6回理事会▽22日、福岡市中央区赤坂 民生委員見学(15名)▽24日、27日、30日、通所 保護者懇談会▽24日、誕生会▽28日、幼児祝福式(入所)

## 【12月】

▽1日、誕生会/第2回評議員会/親交会主催忘年会▽4日、福岡市民クリスマス▽12日、入所クリスマス会▽14日、久山療育園クリスマス 燭火礼拝・祝会(参加人数81名)▽15日、通所クリスマス会(参加人数53人)▽16日、平尾教会子ひつじの園ランチカフェ参加▽19日、音楽会「スマイリングホスピタルジャパン」▽20日、久山町健康福祉課来園(2名)▽22日、福岡特別支援学校 終業式▽26日、全体避難訓練

## 献金申込送金先

社会福祉法人  
バプテスト心身障害児(者)を守る会  
〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869  
久山療育園重症児者医療療育センター内  
☎ (092) 976-2281 (代)  
《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】  
《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普 71888  
個人、会社共に免税の対象になります。  
メール: hisayama@hisayama-smid.jp

## 職員の異動

(2017/11/1)

2018/1/31

【採用】なし  
【退職】

▽岩橋あゆみ(看護師)

▽菅原登紀子(看護師)

12/31付

12/31付



# ボランティア講習会

昨年11月11日(土)、今年度二回目のボランティア講習会を行いました。今年度新しく登録されたボランティアさん、学生の方、教員の方、職員の紹介で来られた方、新聞の案内をみてこられた方など計9名の受講者をお迎えできました。

内容は午前中に、重症児者とはどういう方たちなのか、その方たちに久山療育園がどういう機能を持ちどう支援しているのか、そこでボランティアさんたちにどういう働きをして頂いているのか、等を職員から説明した後、ボランティア会の世話人代表である平良民枝さんに体験談をお話しして頂きました。平良さんにはボランティア活動紹介のチラシに「療育園は五感全部を使ったコミュニケーションの宝庫です。入所者との出会いの中でドキッとしたりハッしたり自分の今のまだ気づかなかつた私を発見します。皆さんの笑顔に癒され、人の存在そのものが嬉しく命が愛しくなるところです。」とコメントを頂いています。

「利用者さんとの接し方に不安があったが、声をかけるだけで、一緒にいるだけで、意味があるということを知って少し気が楽になった」

ました。

その後、皆さんには病棟に入って頂き、食前の集いのなかで入園者の皆さんとふれあいの時をもちました。当然、初めての人が多くコミュニケーションをとるのが難しくもあつたと思うのですが、皆さん積極的に参加され、笑顔が交わされる場面が多くありました。ふれあいが終わるとそのまま施設内の見学をして頂き午前中のプログラムを終了しました。

昼食をはさんで午後は、特に毎回好評をいただく保護者の体験談で、今回は宮内千鶴子さんにお話し頂きました。在宅生活でのご苦労から久山療育園につながった経緯、入園された直後の寂しさや心配、職員とのやりとりの中で心境の変化があつたこと、またボランティアさんに対しては「他愛のない会話でも子どもたちにとっては貴重。気軽に声をかけて」「子どもたちから癒しがもらえる」などの助言まで、多くの貴重なお話しをして頂きました。

受講者の皆さんの感想をご紹介します。

「利用者さんとの接し方に不安があったが、声をかけるだけで、一緒にいるだけで、意味があるということを知って少し気が楽になった」

た。何かを与えることをしなければいけないと思っていました。M・I・T・L・E・B・E・N」という言葉を知って、共に生きて共に楽しめばいいんだと思えた」「自分なりにできるであろうことを楽しく継続できたらいいなと思った」「平良さんの体験談はボランティア活動への緊張感をほぐしてくれた」「宮内さんのお話しはリアルな親の考えが聞けた」「平良さんと宮内さんのお話しと質疑応答を聞いて、少しボランティアへの気持ちがあつた」「利用者さんとの接し方がよく理解できた。さつそく、あいつから始めたい」大変貴重な感想をありがとうございました。

新年度も多くの方のご来園をお待ちしています。

(相談支援員 山田建)



## 歩行器



当面の懸念事項であつた平成30年度の診療報酬等の改定大綱が決定して、当久山療育園重症児者医療療育センターにはあまり影響がない内容となつて、ほつとしていく。

具体的には診療報酬分野では、本体部分が0.55%プラス薬価部分が▲1.74%全体で▲1.19%となり、障害福祉サービス等の報酬は0.47%プラスの改定となつた。

詳細内容については区々であり、最終的には厚労省の通達や指示によつて明らかになるものと思われる。

社会福祉法改正の実質的な初年度にあたり、一部見直し盛り込まれている。今この制度改正の効果が注視されており、いまなお社会福祉法人に対する課税論議が根強く残っている。したがって特に「社会福祉充実残額」の使途や進捗状況及び地域における公益的な取り組み状況に大きな関心が寄せられている。

3月は年度末の決算時期であり、また2018年度の事業計画を確定させる時期でもある。また定年退職を迎える人、異動や入職など大きな変化のなかで新しい春を迎えようとしている。

「年々歳花相似、歳歳年人不同」という言葉があるように、昨日より今日、今日より明日と人は日々成長していかなければならない。

今後行政の動向、世論形成の動きなど「風の方角や速さ」を見つめつつ、久山療育園重症児者医療療育センターの利用者の皆様の要望等を的確に把握し、地域の皆さんと共に歩む施設として、新しいビジョンを掲げて2018年度の事業運営に邁進することが必要であることを再認識させられた。

(M・U)